

# 本県の発展に尽力

## 文化・教育部門

長崎総合科学大名誉教授



「自分の街にある建築の価値をもっと理解してほしい」と語る林氏＝長崎市茂里町、長崎新聞社（林田友広撮影）

林 はやし

一馬氏 かずま (78)

|| 長崎市中川2丁目 ||

## 建築は総合芸術の頂点

「いい建築作品は人に感動を与える。欧州では音楽を語るように街の建築が語られる。総合芸術のトップが建築」と持論を語る。長崎に根を下ろし半世紀。県内の建物や、街づくりを巡る研究の理論的な支柱として存在感を示してきた。

奈良県出身、京都大学大学院工学研究科修了。歴史的建造物の多い関西地方で若き日を過ごした。専門分野は古代寺社建築。1972年に長崎造船大（現長崎総合科学大）の講師として本県で教える始めて以来、これまでとは異なる建築世界に目を開かれた。

長崎は建築史的には大変面白い街だという。16世紀以降、オランダや中国などの影響を受けて独特の建築物が築かれ、それが現在まで積み重なって人々の感覚の中に生きている。「異国情緒が特徴といわれるが、同じように評される神戸や横浜の街とはちよつと違う。アジアの他の都市、例えばシンガポールや香港などに近い」と分析する。

培われた見識を生かし、86年から26年間、県文化財保護審議会委員として、数々の歴史的建造物の復元に携わった。平戸オランダ商館、出島…。絵図があれば簡単だろうと思われがち。しかし、間取りも分からなければ描かれた物の裏側がどうなっているかも分からない。「何がどのように作られたかを探り当てていく、非常にしんどい作業。

勉強させてもらった」と振り返る。

2001年からは「長崎の教会群を世界遺産にする会」の会長として、県内各地に点在する教会建築の価値と魅力を広く訴え続けた。その運動は形を多え、18年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されることで実を結んだ。

近年は戦後に建てられた長崎市公会堂の保存運動も。まちづくりに一家言を持つ専門家として、行政に対して鋭い意見も物申した。それも「建築時期を問わず、いい建築はいい建築だ」という信念ゆえ。「まちおこしの中心は建造物。身近にある建物の価値に、多くの人がもつと気づいてほしい」と改めて強調する。

(犬塚泉)